

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-1
多様な自然の保全

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

自然環境課 森脇 幸

電話番号

0852-22-5346

事務事業の名称	自然保護のための情報収集・整理事業	
目的	(1) 対象	県内の自然情報
	(2) 意図	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。
事業概要	自然環境を保全するための施策を推進するために、県内に生息する多種多様な野生動植物に関するデータを収集・整理する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 情報収集した項目数（文献・連絡情報・調査情報・開発協議等）	目標値		500.0	500.0	40.0	40.0	項目
	式・定義 情報収集した項目数（文献・連絡情報・調査情報・開発協議等）	取組目標値						
		実績値	526.0	735.0				
2	指標名	目標値						%
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	147.0	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	2,587	3,315
うち一般財源 (千円)	2,587	3,315

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・文献や各種調査等により情報収集した野生動植物の生息・生育情報を統合型GISに735項目入力・更新した。
- ・セアカコケグモ（特定外来生物）を確認した際、速やかな報道発表により県民へ周知し注意喚起を行った。
- ・ナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）を確認した際、土木部等関係機関と連携して調査を実施した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・未入力で残存・累積していた生息・生育情報を委託業務で入力・更新した。
- ・開発事業者等からの問い合わせ（事業区域内における貴重野生動植物の生息・生育の有無や影響の回避低減）に対して的確に対応した。
- ・セアカコケグモ確認時の対応は、前年度に策定した対応フローにより迅速に初期対応した。
- ・ナガエツルノゲイトウ確認事例を受けて、県庁関係課と情報共有し防除に向けた体制を整えた。
- ・市民、専門家、関係機関等と連携して、城山内堀川でアカミミガメ等の外来生物の駆除と自然保護や外来生物防除の啓発活動を実施した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・野生動植物は多種多様であり、その生息・生育環境は時間の経過による自然の変遷や改変等により絶えず変化
- ・セアカコケグモ等特定外来生物やアカミミガメ等外来生物の対応

②困っている状況が発生している「原因」

- ・野生動植物の調査研究情報は、県、教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等の様々な主体に蓄積
- ・セアカコケグモは発生場所・時期の予見が困難
- ・アカミミガメは特定外来生物に指定されていないので積極的な防除を躊躇

③原因を解消するための「課題」

- ・教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等との調査研究情報の共有が必要
- ・県庁関係部署及び市町村等での情報共有と危機意識の保持（特定外来生物及び外来生物対応）

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・開発事業者等に対して的確に生息・生育情報を伝えられるように、定期的なモニタリング調査や教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等と日常的に情報交換できるよう緊密な連携を図る。
- ・セアカコケグモの対応については誤対応が起きないように、各関係機関と情報共有を図り対応フローにより速やかに対応する。
- ・特定外来生物の認識及び理解等を高めるためHP掲載、パンフレット配布等情報発信し普及啓発を図る。
- ・その他特定外来生物の防除対策についても、対応が後手に回らないよう関係機関等と定期的に情報共有しながら緊密な連携を図る。
- ・堀川で実施している生き物調査等の取組を通して、市民等の外来生物対策の重要性の理解向上や防除対策への参画、協力を促していく。